

図1 位置図

(2 事業概要 所在地)

鶴見区鶴見5丁目～旭区清水5丁目



<道路掘り返し防止に関する費用便益の概略算出について>

【参考】

・想定条件(耐用年数:75年…共同溝の整備等に関する特別措置法施行令より)

共同溝整備が75年の耐用年数の間に、幹線共同溝に公益施設を収容しなかった場合、75年の間に必要となる各公益施設の想定工事回数(1度の新設+耐用年数により必要となる入れ替え回数)並びに工事交通規制による交通渋滞により算出する。(通常の維持費は同程度のものとし、また、経年変化の社会的割引率は考慮していません)

1. 共同溝を整備しなかった場合

・公益施設をそれぞれ単独で施工した場合の工事費の算出:単独工事費(共同溝建設計画書より)×想定工事回数

関西電力 17.2億円 × 2.5回 = 43.0億円

水道 11.5億円 × 1.9回 = 21.9億円

下水道 80.8億円 × 1.0回 = 80.8億円 計 145.7億円…

耐用年数 関西電力30年、水道 40年、下水道 75年

・国道479号における工事通行規制により余分にかかる走行時間費用の算出(工事1回あたり)

工事により想定される全幅員の1/3を規制するものとする

工事1回当りの工事期間:水道、関西電力2年とする

工事による規制区間距離は1kmとする

街路事業における費用便益マニュアル:国土交通省より 11.7億円… 合計(+) 157.4億円…

2. 共同溝を整備した場合

当該共同溝整備事業の総事業費 110億円…

3. 費用便益比(B/C)

費用便益比 = 総便益 / 総事業費 = 157.4億円 / 110億円 = 1.43

上記のとおり、共同溝事業の目的の1つである「道路の掘り返し防止」により、共同溝を整備した場合の方が、整備しなかった場合に比べて安価なため(>)一定効果は見込まれる。また、その他目的である「都市防災機能の向上」「道路空間の有効活用」による便益も見込まれることから、事業の投資効果はあると考えられる。

ただし、共同溝整備事業については現在、費用便益比(B/C)の算出マニュアルがないため、参考として算出したものである。

図3 進捗状況

(4事業の実現見直しの視点

事業規模)

国道479号清水共同溝整備概要図

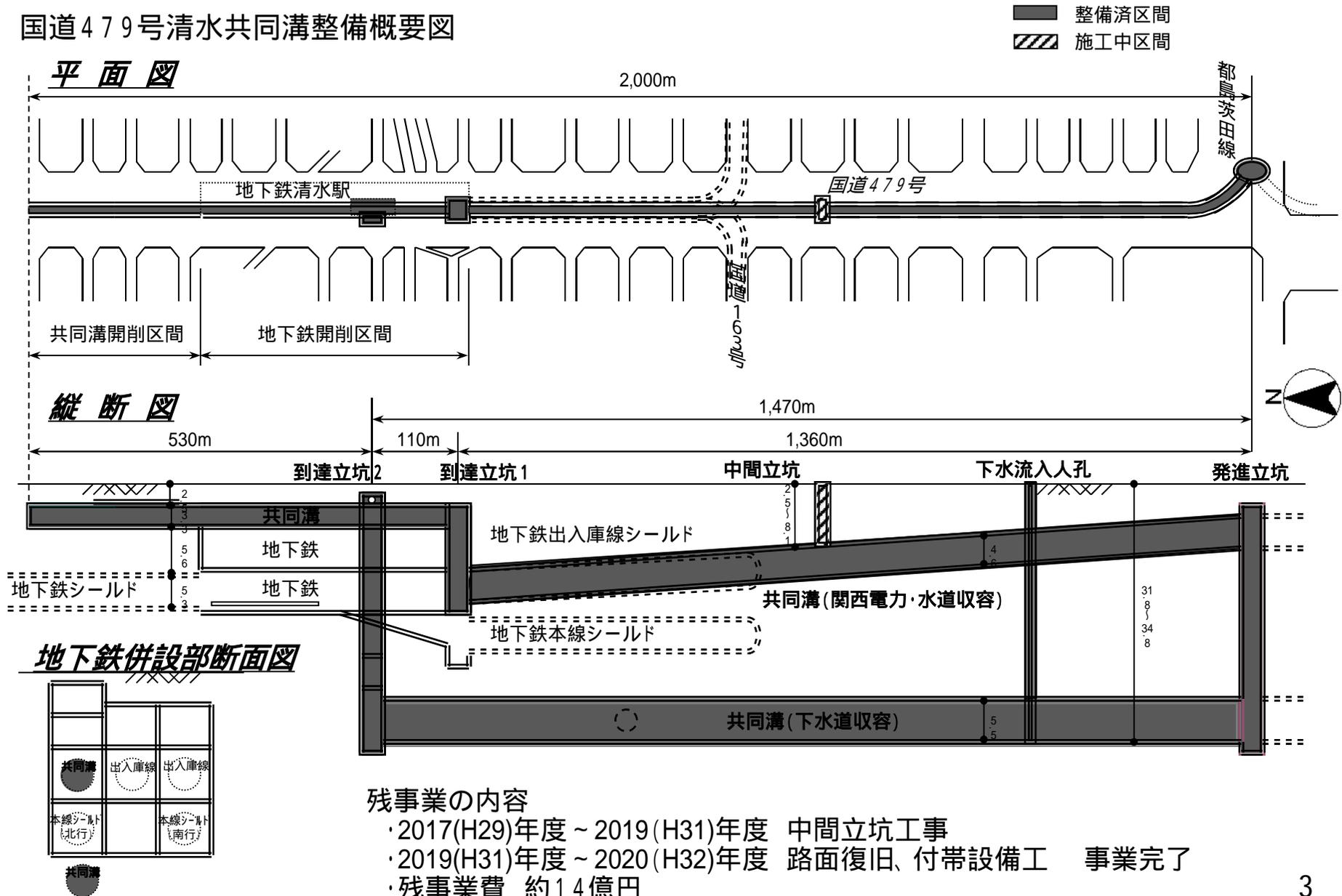


図4 進捗率の推移

(4事業の実現見直しの視点

総事業費)

進捗率(事業費ベース)の推移(単位:%)

